2015−16 年度

地区研修・協議会

District Training Assembly

奉仕プロジェクト部会

DISTRICT SERVICE PROJECTS

Rotary

2015 年 4 月 29 日（水）

アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張

２０１５-１６地区研修・協議会
奉仕プロジェクト部会　次第

平成２７年４月２９日

ＡＰＡホテル＆リゾート　東京ベイ幕張

１３：００	司会挨拶・資料の確認	社会奉仕委員会	植松省自（千葉南ＲＣ）
	開会の言葉	職業奉仕委員会	池田勝之（千葉ＲＣ）
	委員長・アドバイザーの紹介	奉仕Ｐ統括委員長	嘉規　洋（船橋西ＲＣ）
	委員長より委員の紹介	職業奉仕委員長	川原勝壽（佐原ＲＣ）
		社会奉仕委員長	山下清俊（市川東ＲＣ）
		国際奉仕委員長	石井　弘（松戸西ＲＣ）
１３：１０	奉仕プロジェクト委員会	奉仕Ｐ統括委員長	嘉規　洋（船橋西ＲＣ）
１３：２５	職業奉仕委員会	職業奉仕委員長	川原勝壽（佐原ＲＣ）
１３：４５	社会奉仕委員会	社会奉仕委員長	山下清俊（市川東ＲＣ）
	・「君たちの未来は輝いている」バスケットボール		栗林琢哉（船橋ＲＣ）
	・県立千葉盲学校の生徒・介助者を１泊２日で招待		牧野利美（勝浦ＲＣ）
１４：１５	休憩		
１４：３０	国際奉仕委員会	国際奉仕委員長	石井　弘（松戸西ＲＣ）
	・スリランカの図書館に本を寄贈するプロジェクト		中村俊人（柏東ＲＣ）
	・スリランカ音楽楽器プロジェクト		山本　衛・谷口義紀（松戸西ＲＣ）
	・スリランカの現状について		サジーワニー（米山学友）
１５：１０	奉仕活動に関するディスカッション＆質疑応答		
１５：１５	総評		
		社会奉仕委員会アドバイザー	ＰＧ土屋亮平（松戸ＲＣ）
		職業奉仕委員会アドバイザー	ＰＧ森島庸吉（船橋西ＲＣ）
		国際奉仕委員会アドバイザー	ＰＧ﨑山征雄（習志野中央ＲＣ）
１５：３０	閉会の言葉	国際奉仕委員会	鈴木荘一（君津ＲＣ）

※ＰＧ＝パストガバナー　奉仕Ｐ＝奉仕プロジェクト

２０１５－２０１６年度
奉仕プロジェクト委員会　委員

統括委員長　嘉規　洋（船橋西ＲＣ）

職業奉仕委員会　委員長　川原勝壽（佐原ＲＣ）
委員　齋藤豊久（勝浦ＲＣ）
委員　河野和夫（成田空港南ＲＣ）
委員　中村俊人（柏東ＲＣ）
委員　山本克己（四街道ＲＣ）
委員　池田勝之（千葉ＲＣ）

社会奉仕委員会　委員長　山下清俊（市川東ＲＣ）
委員　根本孝英（柏ＲＣ）
委員　植松省自（千葉南ＲＣ）
委員　松本ユミ（柏西ＲＣ）
委員　佐藤信二（茂原ＲＣ）

国際奉仕委員会　委員長　石井　弘（松戸西ＲＣ）
委員　梅原佐一（八日市場ＲＣ）
委員　鈴木荘一（君津ＲＣ）
委員　阿部博文（千葉ＲＣ）
委員　髙木浩一（銚子ＲＣ）
委員　米良　暁（千葉緑ＲＣ）

2015-2016 奉仕プロジェクト委員会

活動方針

ロータリアンの団体奉仕は個人奉仕の上に成り立つという発想から、奉仕プロジェクト委員会は社会奉仕委員会・国際奉仕委員会に加え、今年度は職業奉仕委員会が加わりました。職業奉仕の理念を噛み砕き個人奉仕に繋げてもらいたいという想いから３委員会で連携して活動することになりました。

奉仕活動は大切なロータリー活動の一部です。当地区にはロータリーの「６つの重点分野」に沿った国際的な分野から身近な地域に対する分野まで様々な奉仕活動が行われています。奉仕プロジェクトを実施することは会員の参加を促し、プロジェクトの成功は達成感や結束が生まれ、さらに魅力的なクラブへ変化を遂げるでしょう。しかしながら中には奉仕プロジェクトを全く実施していないクラブがあります。それは奉仕の機会を会員に提供出来ていないことにもなります。地区内のクラブが魅力的になるように私たちは会員やクラブが実施する奉仕プロジェクトの立案をサポートして参ります。

活動計画

- 奉仕プロジェクトセミナーを１回／年実施する。（１０月実施予定）
- ロータリー財団地区補助金の内容を周知し、利用を促す。
- 卓話を年間通して実施する。
- 各クラブの社会奉仕・国際奉仕の計画と実施した結果を把握する。
- 地区ＨＰやＳＮＳサイトを利用して奉仕プロジェクト委員会の活動状況や地区内クラブの社会奉仕・国際奉仕活動状況を発信することで地区とクラブの距離を縮める。
  - Facebook : Ri2790 地区 2015-16 奉仕プロジェクト委員会（「2790」で検索して頂くと候補に出てきます）
- 国際大会（ソウル）への参加推進を行う。
- ＶＴＴを周知する。
- 地区大会で奉仕プロジェクト委員会活動を広報する。
- 「ロータリー希望の風奨学金」のＰＲと寄付を募る。
- 他の地区委員会と連携し活動の相乗効果を図る。

職業奉仕の精神は、ロータリー活動の屋台骨に変わりはない。

段取り八分、次年度の準備に向けて！

（1）　巷間、国際ロータリーは、職業奉仕をないがしろにしているというが……？
まことしやかな、噂話に過ぎない。
そうでないことは、「ロータリアンの行動指針」に明らかである。

ロータリアンの行動規範

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

1．個人として、また事業において、高潔さと高い倫理基準をもって行動する。
2．取引のすべてにおいて公正に努め、相手とその職業に対して尊重の念をもって接する。
3．自分の職業スキルを生かして、若い人びとを導き、特別なニーズを抱える人びとを助け、地域社会や世界中の人びとの生活の質を高める。
4．ロータリーやほかのロータリアンの評判を落とすような言動は避ける。
~~5．事業や職業における特典を、ほかのロータリアンに求めない。~~（2014 年 10 月理事会で削除）

2011-12 年度の RI 理事会で、《ロータリアンの職業宣言》に代えて、8 箇条からなる Rotary Club of Conduct（ロータリーの行動規範）が採択された。

その後、2013 年 5 月に改定がなされ、5 箇条からなる『ロータリアンの行動規範』が各地区に伝達された。特筆すべきは、第 1 項で、「職業」より範囲の広い「事業」という表現を使って改定されている点である。

更に、2014 年 10 月の理事会において、第 5 項が削除されている。四つのテストに鑑みれば当然の措置である。

第 1 項と第 2 項が、職業人としての行動のありようを説いている。

それを受けて、職業人としてその精神を実践する中で、次代を担う若人への支援、更には、地域社会や世界への貢献をしていこう、というのが第 3 項である。

国際ロータリーは、職業奉仕をないがしろにしているどころか、優先的に職業奉仕を謳い、他の奉仕活動につなげることを示唆していると読むべきであろう。

後述する（3）で、**『職業奉仕は、社会奉仕・国際奉仕と折り合いはつくのか？』**で詳細に論じたいが、奉仕活動に思いが向くのは、職業（事業）がうまくいっているから出来ることである。

今年度は、思い切り泥臭く職業のあり方、職業奉仕のあり方を追究し、奉仕の種を探していきたい。自らが幸せでなくして、人の幸せ作りのお手伝いをすることは叶わないであろう。先ず足下から！

（2）「 一歩でも前へ進もう！」

（地区職業奉仕委員会の立ち位置・考）

ロータリーに正解はない。

10 人いれば 10 人の、100 人いれば 100 人のロータリ観がある。

それを、どちらが正しいのかと議論しても、詮無いことである。

問答するならば、「昨日の自分」と「今日の自分」とでするがよい。堂々巡りをするならば、己が成長していない兆しととらえたい。

他人の意見に、謙虚に耳を傾け、自分のこころの肥やしにするくらいの度量が欲しい。今ほど、自分磨きを疎んじる世相はないように思う。

ほんの少し前まで、人や社会に希望があったように、ロータリアンには、人格陶冶に意を配るロータリアンとしての矜持が、それぞれにあったような気がする。

かつて、賢人は、この矜持を『ノーブレスオブリージュ』と表現された。

これは、「高い地位にある者は、高い徳を備え、重い責務を果たす必要がある」という考え方をいい、「選ばれし者の責務」ともいわれる。

ここ数年、一人ひとりがロータリー観を磨き上げて欲しいという希望を抱いて、元気づけるための言動を心がけてきた。

なんとなく元気のないロータリアンに元気を取り戻して欲しい、その一念での愚挙であった。

京都南禅寺の近くに、琵琶湖疎水を引き込んだ東山別荘群がある。その庭の多くを手がけたのが、植治こと植木屋治兵衛、7 代目小川治兵衛である。

彼は、弟子達に言い続けた。

「人格を磨け、人格以上の庭は出来ないのだから」と。

学生時代、ネラン塾で議論しあった畏友・鈴木博之氏の『庭師小川治兵衛とその時代』（2013 年上梓・東京大学出版会）に詳しい。残念ながら、彼は、昨年 68 才で鬼籍に入る。

人格陶冶の手段として、ぜひ次年度の RLI（ロータリー・リーダーシップ研究会）にご参加を！

（３）職業奉仕は、社会奉仕・国際奉仕と折り合いはつくのか？

次年度の職業奉仕委員会は、地区リーダーシッププラン（DLP）に則り「奉仕プロジェクト委員会」の一角を担うことになった。

職業奉仕をロータリーの金看板と仰いできた方々は、面食らうかも知れない。職業奉仕委員会を設けない地区も出てきている昨今、私達職業人にとって、「職業奉仕とは何か」を真摯に考えてみる時期にさしかかっている。時すでに遅いのかも知れないが。

『道徳を忘れた経済は、罪悪である。経済を忘れた道徳は、寝言である。』江戸時代の二宮尊徳の言である。近年、似たフレーズを使った人がいる。『理念なき行動は、凶器であり、行動なき理念は、無価値である。』（本田宗一郎）、と。

現代社会では、職業人による経済犯罪がなんと多いことか。営々と日本の社会で培われてきた商人道も廃れたものである。こう考えたとき、閃いた。商人道を追究することで、分かりやすい職業奉仕のヒントが見つかるのではないか、と。

商人精神の思想形成の嚆矢は、禅僧・鈴木正三（しょうさん）（1577-1655）であろうか。彼は、40 代半ばまで二代将軍秀忠の親衛隊の武士であった。彼は、金儲けは卑しいとされていた時代に、職業に貴賤はないと説き、士農工商の区分は身分の序列ではなく、社会貢献範囲の分類に過ぎないと喝破した。

その思想をうけて、日本永代蔵の井原西鶴（1642-1693）や、石門心学の石田梅岩（1685-1744）が、更には、二宮尊徳（1787-1856）が、さらには商人道を企業家精神に高めた福沢諭吉や渋沢栄一が、商業道徳のありようを説いている。

ここで忘れてならないのは、江戸時代の近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の行動様式である。

近江国神崎郡石場寺の麻布商中村治兵衛の 1754 年の書き置きが残されている。訳すと、『たとえ他国へ行商に出かけても、自分の持ち下った衣装等をその国のすべての顧客が気持ちよく着用できる様に心がけ、自分のことよりも先ずお客のことを思って計らい、一挙に高利を望まず、何事も天道の恵み次第であると謙虚に身を処し、ひたすら持ち下り先の地方の人々のことを大切に思って商売をしなければならない。』

天秤棒精神は、ただ汗水垂らして気張るだけではなく、社会の一員としての自覚を忘れず働くことが説かれている。まさに社会奉仕の精神である。

消費者への誠実、地域や世界への心配りが、職業奉仕の根幹にあるような気がする。職業奉仕は、商売をしっかり繁盛させることが前提で、同時に周囲への心配りも忘れないことである。ご自身の心が豊かでなければ、人に善行は施せない。

表題に掲げた社会奉仕委員会と国際奉仕委員会と「いかに折り合いをつけるのか」という周囲の不安が杞憂に終わるように、皆さんとともに知恵を絞っていきたい。

理念中心に考えられてきた職業奉仕を、地に足の着いた実のあるものにするために！

※この項は、PETS（会長エレクトロ研修セミナー）用の原稿として書いたものである。クラブ会長と情報の共有を希望しての掲載である。

（４）職業奉仕の実践は「４つのテスト」(The Four-Way Test)の実践に他ならない。

どの場面でも４つのテストを確実に実践しようとするのは難しい。

公平に振る舞おうとしても、私情が入るとどうしてもぶれてくる。「嘘も方便」が必要な場面で、真実を伝えるべきかどうか、本当に悩ましい。
死期の迫った人に、もう持たないよって云うことが、本当に親切かどうか。分かっていても好き嫌いが、適切な判断を狂わせてしまう事態は、日常茶飯事である。

大人の知恵と誤魔化してしまうことのなんと多いことか。

でも可能な限り、Of the things we think, say or do を心がけるべきであろう。

職業奉仕は難しくない。実践するのが、難しいだけである。

かつて、佐藤千壽さんは、国際ロータリー第 2790 地区・ロータリー生誕 100 周年記念祝賀会の記念講演で、『職業奉仕は、…（略）… 如何に生きるか、という生き方です。』と、喝破された。

けだし名言である。

（５）今、ロータリーに求められるのは、会話と対話である。

「例会は人生道場」といわれていたのに、例会場で会話が弾まない。価値観の摺り合わせをしながら行う対話は、例会で殆ど見かけなくなった。

これでは、人生の先輩達に敬意を払い、教えを請おうとする若者を引きつけることは不可能である。会員減少に拍車がかかるだけである。

なんとかしなければと思い乍らも手をこまぬいていることは、茹で蛙が出来上がるのを待つに等しい。

なんとかしなければ、でも、今なら間に合う。

※職業奉仕委員会では、会話の切っ掛け作りのためにも、卓話を積極的に受け付けたい。委員全員で、卓話の希望にあたりたいと考えている。　（文責：川原勝壽）■

社会奉仕委員会

地区社会奉仕委員長
山下清俊（市川東ＲＣ）

活動方針

私たちロータリアンにとって一番身近で奉仕活動ができる機会、それはクラブの社会奉仕委員会で計画したプログラムを実行することではないでしょうか。そのお手伝いをさせていただきますのが、地区の社会奉仕委員会です。

本年度、地区社会奉仕委員会といたしましては、この各クラブの社会奉仕活動の計画～実行に対してどんなお手伝いができるのかを確かめながら、全力を挙げて取り組んで参ります。

これまでも、地区内各クラブ、国内更には世界まで目を拡げてみますと、それぞれのクラブで多種多様な社会奉仕活動が行われていることがわかります。2014-15 年度の地区アンケート結果でも、回答をいただいた７４クラブすべてで、何らかの社会奉仕活動がやられております。

その最終的な結果である「実行」に至るまでには、まず様々な動機やきっかけがあって、更に「どんな活動をしようか？」、「どこに話を持っていけばいいだろうか？」、「資金は？」、「人手は？」などいろいろな課題を解決してこられたことと思います。あるいはその検討の中で、残念ながら実行に至らなかったプロジェクトもあったのではないかと思います。

そこで、私たちはそのプロセスに焦点をあて、探っていくことで、皆様各クラブの社会奉仕活動の実践に少しでもお役に立てればと考えております。

特に資金については、ロータリー財団の地区補助金を有効活用することが、社会奉仕活動のレベルアップに繋がることが期待できますので、この面でのお手伝いをして参ります。

これについては、補助金申請のスケジュールとの関係もあり、単年度でとらえるのではなく、むしろ次年度の計画を意識した中で取り組んで参ります。

活動計画

・年度開始早々に実施されるＩＭで少しお時間をいただき、各分区のクラブ会員の皆様に直接、今年度の活動についてお伝えする。
・奉仕プロジェクトセミナーに先立ち、各クラブに対してアンケートを実施する。
・奉仕プロジェクトセミナーでは、アンケートの結果から社会奉仕活動のプロセスに焦点をあてて、各クラブの実践（計画～実行）の参考となる報告と討議を行う。
・各クラブからの社会奉仕に関する卓話要請や相談に対して、随時対応する。
・他の地区委員会との連携を図る。
・「ロータリー希望の風奨学金」に対する寄付を募る。

千葉県立千葉盲学校生(児童・生徒)、保護者「ロータリーデイ招待」

日 程 ・ 内 容

日程　平成 26 年 8 月 25 日（月）～26 日（火）1 泊 2 日

（メモ）

・社会奉仕委員及びその他会員の役割分担表

8 月 25 日（月）大型観光バス

午前　9:00　千葉県立千葉盲学校出発

・招待者保険加入
・バス会社予約
・出発時の TEL 通知

午前 11:00　御宿町「海のホテル」到着
軽食・休憩・着替え

・軽食、アレルギーチェック

午後　1:00　海水浴（武道大・水泳部手助け）ライフセーバー監視

・ボランティア武大生 氏名 生年月日 住所 TEL
・ボランティア武大生昼食準備

3:30　休憩・散策・入浴・地域の人と交流

・楽器、備品小運搬
・夕食会参加者人数把握
・バーベキュー花火確認

5:30　歓迎夕食会（音楽の夕べ）勝浦アンサンブル同好会
バーベキュー・地域の子ども達と交流・花火等

7:30　自由時間（海辺散策）・就寝

8 月 26 日（火）

午前　8:00　朝食

・朝食アレルギーチェック
・精算「海のホテル」チェック

9:30　「海のホテル」チェックアウト・出発

10:20　ブルーベリーヒル勝浦着
小動物との触れ合い等

11:30　昼食

・昼食アレルギー

12:30　乗馬体験（馬との触れ合い）

午後　2:30　お別れ会、思い出・感想発表・意見発表

3:00　ブルーベリーヒル勝浦　出発

・精算「ブルーベリーヒル」チェック
・精算 バス会社「㈱大日ドリーム観光」￥145,900

（窓口）勝浦ロータリークラブ
社会奉仕委員会　吉田理愛委員長
080-6662-1132

COPY

個別プロジェクト報告書

本書式に漏れなく記入の上、地区ガバナー事務所にご返送ください（直接ロータリー財団に送らないでください）。

ロータリー・クラブ： 勝浦ロータリー・クラブ
プロジェクト名： 『県立千葉盲学校の生徒・介助者を１泊２日で招待』
中間報告書 □　　**最終報告書** ■

プロジェクトの概要

1. このプロジェクトで何が、いつ、どこで実施されたかを簡潔に説明してください。これが中間報告書である場合には、今後実行すべき活動内容も説明してください。

平成 26 年月 8 月 25 日より 1 泊 2 日にて千葉県立盲学校の生徒及び家族の皆様を房総の地、勝浦御宿にご招待し、地域の皆様との触れ合いの場を設け、海遊び、音楽鑑賞などの体験をして頂き、同時に地域社会にロータリークラブの活動の一端を披露、理解を広めた。

2. このプロジェクトの恩恵を受けた人々の数はどのぐらいですか。 150 人

3. プロジェクトの受益者は誰ですか、またどのような恩恵を受けましたか。プロジェクトはどのような人道的ニーズに応えましたか。

千葉県立盲学校の生徒及びご家族、および勝浦御宿地区の地域住民。
視覚障害により日常ではなかなか体験できない海遊びや花火、乗馬などの体験を援助する事により、目の不自由を超越した感動の場を提供し、障害者と健常者が共に歌い、笑い、汗を流し、感動を共有した事によって真のバリアフリーの世界を実体験した。

4. このプロジェクトに何名のロータリアンが参加しましたか。 35 名

5. これらのロータリアンは何を行いましたか。プロジェクトへの財政的支援を除き、その具体例を少なくとも 2 つ挙げてください。

大型バスにて四街道からお越し頂いた生徒及びご家族を多くの会員にてお迎えし、熱射病予防のテント張り、飲み物の用意などの海遊びが出来る状況を準備した。
夜は勝浦アンサンブル同好会の演奏をバックに共に歌い、踊った。夜の花火では、視覚障害の子ども達が楽しく花火遊びが出来るよう援助した。
2 日目においては、うさぎや山羊などに餌をやったり触れ合いの場を設け、又、乗馬体験の援助をした。

6. 協力団体が関与している場合、その団体の役割は何でしたか。

勝浦アンサンブル同好会：アコーディオンなどによる生の演奏
国際武道大学水泳部：視覚障害の子ども達の海遊びの支援及びコミュニケーション

COPY

財務報告（地区はすべての支出の領収書を少なくとも 5 年間保管しなければなりません）

使用通貨 _____ 為替レート _____ ＝1 米ドル

7. 収入

収入源	通貨	金額
1. 地区から受領した地区補助金の資金		300,000
2. クラブ拠出金		542,172
3.		
プロジェクトのための収入合計額		842,172

8. 支出（具体的にお書きください。必要に応じて行を追加してください。）

予算項目	業者名	通貨	金額
1. 機材設置、設営費	勝浦アンサンブル同好会		94,000
2. 生徒及び家族宿泊費、滞在中の食事代他	御宿海のホテル		527,212
3. 乗馬調教師謝礼・コース使用料	ブルーベリーヒル勝浦		20,000
4. 2 日目昼食費	ブルーベリーヒル勝浦		37,800
5.大型バス 1 泊 2 日借上料	㈱大日ドリーム観光		140,400
6.レクリエーション賠償責任保険代	㈱損害保険ジャパン		22,760
プロジェクト支出合計額			842,172

証明の署名

本報告書に署名することで、私の知る限りにおいて、地区補助金の資金が管理委員会の指針に準拠し認められた項目にのみ使用され、ここに記されたすべての情報が事実であり、かつ正確であることを認めます。補助金資金のすべての支出の領収書を、地区に提出しました。また、私は、本報告書に関連して提出した写真はすべて、RI の所有物となり、返送されないことも理解しています。私は著作権を含めこの写真のすべての権利を所有することを認め、時と場所を問わず、いかなる方法、また現在知られている媒体または後に作成される媒体において、使用料なしで写真を使用する取消不能な許可を RI とロータリー財団に与えます。これには、必要であれば、RI の独自の裁量により写真に修正を加える権利が含まれます。また、RI およびロータリー財団が、ウェブサイト、雑誌、冊子、パンフレット、展示、その他の推進資料において写真を制限なく使用できる権利も含まれます。

証明の署名 _____ 日付 _____

氏名、ロータリーの役職、ロータリー・クラブ名 _____

この欄は地区ロータリー財団委員長がご記入ください。

地区補助金番号 _____ 個別プロジェクト報告書番号 _____

国際奉仕委員会　委員長挨拶

まず一歩踏み出そう！世界へ

国際ロータリー第 2790 地区　2015-16 年度

国際奉仕委員会　委員長　石井　弘（松戸西 RC）

2015-2016 年度の各クラブ国際奉仕委員長の皆様に、地区国際奉仕委員会より活動方針のご報告とお願いをさせて頂きます。

国際奉仕の「関連書物・通信を通じて他国の人々を救済する事を目的としたクラブの全ての活動やプロジェクトに協力する事で、他国の人々と文化や習慣・功績・願い・問題に対する認識を養い国際理解、国際親善、国際平和を推進する為に会員が行う全ての活動からなるものである。」という定義を主軸とし、奉仕プロジェクトとしての連携も図りながら、クラブ単位で行う国際規模等のマクロ的国際奉仕活動から、各地域のクラブ単位で行うミクロ的国際奉仕活動までを『国際奉仕プロジェクト』の立案と実施を地区委員会としてサポートさせて頂きます。

地区国際奉仕委員会によるアンケートの結果により、約３５％のクラブが具体的な国際奉仕活動を休止または停止の状態であり、その要因として①自クラブ内での国際奉仕活動の企画化が困難である。②所属会員数の減少化③会員数減少等による資金不足などが挙げられました。2015-2016 年度は、櫻木ガバナーの運営方針により国際奉仕活動ゼロのクラブに対して積極的に喚起し、マクロ・ミクロ的国際奉仕の実例や提案を提供させて頂きながら、地区内各クラブの国際奉仕委員会との交流を大切に活動して行きます。

例えば、要因③の活動の企画に資金的不安のあるクラブには、ロータリー財団の「グローバル補助金」と「地区補助金」のシステムを活用して頂き、取り敢えず一歩を踏み出してみて下さい。大所帯のクラブ・所帯の小さなクラブなりの国際奉仕は必ずある筈ですから。どうぞ、お願いです。躊躇する前に地区国際奉仕委員会へご相談ください。必ず良い結果を出す事が出来ると思います。

国際奉仕はクラブ単位のみ可能な事ではなく、ロータリアン個人単位でも出来る事は沢山あります。ロータリー活動を離れての国際奉仕活動もあるでしょう。困窮した人々への救済の手を差し伸べる事は、ロータリアン以外の人々でも出来る事です。ロータリアンにしか出来ない事があるとすれば、人種・国籍・宗教・政治に煩わされる事なく平等に同じ価値観を共有出来る組織人として、偏見なく贔屓なく交流が出来ることではないでしょうか?

第 2790 地区のロータリアンの皆様に実感して頂く為に、世界大会への参加を地区国際奉仕委員会よりご提案させて頂きます。2015-2016 年度の世界大会は隣国の韓国(ソウル市)です。成田空港から約２時間と近くて参加しやすい大会です。

世界大会に参加された経験を持つ会員の方々から、世界大会に参加しなければ経験出来ない感動と、国際ロータリーの規模の大きさと存在意義を感じ取る事が出来たとお聞きします。世界大会韓国開催をチャンスとして、是非多くのロータリアンに参加して頂き、第 2790 地区全てのクラブに参加して頂ければ国際奉仕活動ゼロのクラブが解消されると考えます。国際親善・親睦・奉仕の輪を広げる為に全クラブのロータリアンに、参加の呼びかけをさせて頂きます。

最後となりますが、世界大会への参加、全てのロータリー活動に参加出来るのはロータリアンに与えられた平等な権利であり義務であると考えます。多くの活動や行事に参加する事によって貴重な経験と感動を得られると共に、多くの事を学び取る事が出来ます。個々のロータリアンの人格向上にも繋がるとも思っています。

2015-2016 年度国際奉仕委員長の皆様、小さな事からで結構でございます。国際奉仕プロジェクトの立案・実施をお願い申し上げます。

追記

グローバル補助金とは?

補助金額 3 万ドル以上 40 万ドル未満。国際ロータリーが定める６つの重点項目に該当するプロジェクトに支給される補助金で、3 年間継続して支給される。

国際ロータリーの受付期間は、特に定めず随時受け付ける。

地区補助金とは?

補助金額 30 万円未満。国際奉仕活動内であれば特にプロジェクト内容に規定は無い。単年度のみの支給。地区補助金への申請期間は、次年度事業分は 4 月 15 日が締切り

地区国際奉仕委員会は各クラブの国際奉仕活動が

一歩世界へ踏み出せるように支援します。

地区国際奉仕委員会活動計画

1．国際奉仕活動ゼロクラブへの支援
2．卓話　随時受付実施
3．「地区補助金」「グローバル補助金」周知推進
4．IM での国際奉仕活動 PR
5．奉仕プロジェクトセミナーへの参加
6．国際大会への参加呼びかけ
7．報告書の作成

○　国際奉仕活動へ一歩踏み出すことに迷われているクラブの方へ

・企画立案、実施へのヒントを提供させて頂きます。

・卓話へクラブが望む講師を派遣します。

○ 金銭的に問題があると考えているクラブの方へ

・ロータリー財団の「地区補助金」「グローバル補助金」の活用をお勧めします。まず一度担当者をクラブへ呼びましょう。派遣のお手伝いをします。一歩進む糸口を探しましょう。

○ IM での PR 活動

・７月～８月に各地区で行われます IM で奉仕プロジェクトチームの PR の時間を頂くことに成りました。国際奉仕委員会の活動を第２７９０地区全会員へ PR 出来る最大のチャンスだと考え次の事項を PR させて頂きます。

・国際奉仕活動を一歩踏み出して頂けるよう、その魅力を伝えます。

・ロータリー財団の「地区補助金」「グローバル補助金」を利用してさらに活動を広げて頂けるよう呼びかけます。

・国際大会（韓国ソウル）参加への PR
国際奉仕活動の第一歩として捉えて頂き大会の素晴らしさを会員に伝え第２７９０地区全クラブが参加して頂けるように全会員に呼びかけます。

・国際奉仕に関する卓話、質問を随時受け付けます。

○ １０月奉仕プロジェクトセミナー開催
（国際奉仕実施ロータリークラブ、実施準備中ロータリークラブに発表の場を提供します。）

・国際奉仕活動を実施されたロータリークラブには「やってきたぞ」と大きな声でその内容を発表して頂きます。

・実施準備も整い「これから出発するぞ」と言うクラブの方にも大きな声でその内容を発表して頂きます。

・活動を躊躇されているクラブは、ぜひ、活動内容を参考にして頂き来年に向けて計画立案のきっけにして頂きたいと思っております。（来年度、地区補助金、グローバル補助金の準備も合わせて呼びかけます。）

・国際大会の PR　国際活動の第一歩として参加を呼びかけます。

○ ２８年５月世界大会「韓国ソウル」
第２７９０地区の全クラブで参加しましょう。
大会の素晴らしさを味わいましょう。

国際奉仕活動に関するお問い合わせは最終ページに記載されています。
気軽にどんどんお尋ねください。
卓話もどしどし申し込んでください。

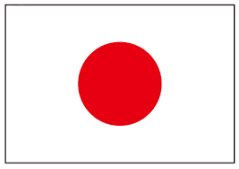
国際奉仕活動　　事例紹介

今回の事例紹介は、一人の米山奨学生を受け入れたことがきっかけとなり、二つのロータリークラブがスリランカへの国際奉仕活動実施へと発展しクラブに大きな感動と活力を与え今燃えているクラブの方にお願いしました。本日ご参加頂きました皆様のこれからの活動の参考になれば幸いです。

スリランカ図書室設置プロジェクト実施報告
柏東ロータリークラブ　中村俊人様

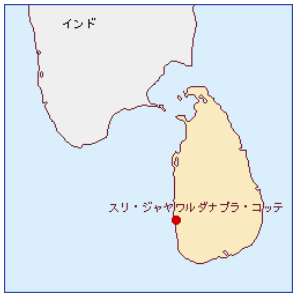
スリランカ音楽プロジェクト実施報告
松戸西ロータリークラブ　山本　衛様　谷口義紀様

米山学友　　サジーワニー様
元米山奨学生「千葉大学大学院卒業、文学博士」



スリランカとは

スリランカ民主社会主義共和国（スリランカみんしゅしゃかいしゅぎきょうわこく）、通称**スリランカ**は、南アジアのインド亜大陸の南東にポーク海峡を隔てて位置する共和制国家。首都はスリジャヤワルダナプラコッテ。
1948 年 2 月 4 日、イギリスから自治領（英連邦王国）の**セイロン**として独立。1972 年にはスリランカ共和国に改称し、英連邦内の共和国となり、1978 年から現在の国名となった。人口は約 2027 万（2012 年）である。島国で、現在もこの国が占める主たる島をセイロン島と呼ぶ。国名をスリランカに改称したシリマヴォ・バンダラナイケは世界初の女性首相である。また、国民の 7 割が仏教徒（上座部仏教）である。
1983 年：シンハラ人とタミル人との大規模な民族対立が起こって、全土にわたって暴動が繰り返された。これ以後、2009 年に至るまで長期にわたる事実上の内戦状態が継続した。
日本とスリランカの関係は、日本はコロンボに在スリランカ日本国大使館を置いている。また、スリランカは東京に在日本国スリランカ大使館を置いている。日本とスリランカは、スリランカがイギリスから正式に独立した 1948 年から 4 年後の 1952 年に正式な国交を樹立させた。また、国交樹立前の 1951 年に行われたサンフランシスコ講和会議にはセイロン代表としてジュニウス・リチャード・ジャヤワルダナ大統領が出席、「憎悪は憎悪によって止むことなく、愛によって止む（Hatred ceases not by hatred, but by love.）という仏陀の言葉を引用、対日賠償請求権の放棄を明らかにすると共に日本の国際社会復帰を求め、日本の国際社会復帰の道筋を作った。また、昭和天皇が英国領時代にスリランカを訪問した 1921 年から 60 年後の 1981 年には今上天皇（当時は皇太子）がスリランカを訪問している。



国際奉仕活動　　2015・4・19

スリランカの貧困層の子供達へ学習教材をおくる奉仕プロジェクト
「柏東ロータリークラブ文庫設置」　報告

2014－15 年度
柏東ロータリークラブ
会長　中村俊人

年も明けてすぐ、昨年よりクラブにおいて準備してまいりました、「スリランカの貧困層の子供達へ贈る奉仕プロジェクト」の一環でガンバハ地区へ訪問し、図書室設置をし、図書を貧困層の子供達のセンターとして努力されていますワルダナ寺院の僧侶アマラワンサ僧へお渡ししてくる事が出来ました。

この奉仕プロジェクト計画については昨年の 8 月 10 日に開催されました奉仕プロジェクトセミナーにおいて皆様に御報告させて頂きました。

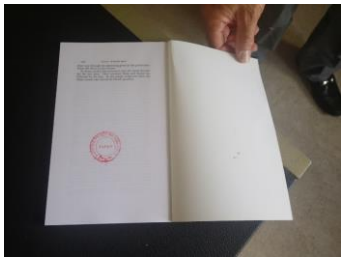
昨年の 1 月に現地に訪問し、スリランカの子供達の様子をしっかりと把握したうえで、私たちロータリアンが今出来る事は何かを考えさせられました。その中で今年度に柏東ロータリークラブとして検討した結果、地区のロータリー財団のサポートを受けまた、クラブ会員の援助金や、特別寄付金を合わせまして図書室設置をできました事を共に皆様に報告致します。この図書室設置するにあたり、スリランカの米山学友のサジーワニーさんご夫婦と地域の皆さまのサポートがあっての実現と考えています。この地域には図書室といった施設は無いと伺っています。

贈呈式当日の 1 月 18 日には、**寺院の参道の門の前に、近隣の小学校の子供たちや地域の皆さんの歓迎と、古来の儀式の舞により出迎えを受けました。　とても大人数により境内はあふれんばかりでしたが、住職の先頭により境内へと迎えられ、まずは国旗の掲揚と国歌斉唱から歓迎式はスタート**致しました。　私達は、当日に行われました、　**スリランカ全土の優秀な子供たちで、貧困家庭の為に教育困難な子供たちへの支援をされています、鈴木康夫氏が行っていますコスモス奨学金授与式と共に　図書室の贈呈式を行って頂きました。**

この奉仕プロジェクトを実施したいと考えた思いは、私がご縁あって、地区の米山奨学委員会にて奨学生のサジーワニーさんと出会い、またその後に交流させて戴いた縁で始まり、千葉大にて勉強をしながら子育てと母国の貧困な子供たて地への支援活動をされている事にも感銘を受け活動支援と致しまして、クラブの会員の仲間達と貧困な子供達への里親として支援活動を行うなかで共にスリランカへ訪問いたしましたことが始まりです。

また、サジーさんと共に大網ロータリークラブへ卓話に訪問した中で、大網ロータリークラブの皆様もサジーサンの活動に感銘を受け、共にスリランカへ訪問し貧しくとも優秀な子供達へ里親支援としてサポートしている仲間も多くいます。また、松戸西ロータリークラブへと輪が広がり、多くのロータリアンによる国際奉仕へと繋がっています。

この度の図書室設置による贈呈式は、**図書室の銘板の除幕を会長の中村**が行い、**扉前のテープカットを新田国際奉仕委員長**に執り行って頂きました。内部図書室に入り、二部屋のスペースを図書室として設けて頂きまして本棚を設置されていましたが、私達の贈呈した本が役2600冊ほど整理されていましたことを確認できました。
参加して頂いた皆さまと共に寺院の僧侶の皆さまによるお祈りをして頂きました。



整理された本には、**柏東ロータリークラブとしての印を押印**されていることもしっかりと実施して戴いていました。壁にはクラブの皆さまによる集合写真とバナーが飾られています。
しかしながら、棚の中はまだ図書が少なく、「も少し多く並べられたらもっと図書室らしくなるかな」と思えたのも事実ですね。でもそれは今後の課題であり、クラブの長期計画として立て、少しずつ増刊し、「子供たちの夢への実現」に向けての　サポートができるように努力したいなと考えています。
そのオープニグンセレモニーの後、檀上にて管理頂くアマラワンサ僧へ目録としてお渡しまして、式典のスタートを致しました。　当日は、この寺院の近くであり、ポロンナルワ地域のロータリアンも駆けつけて頂き、とてもよかったと思います。
奨学金授与式に参加した子共達は、非常に貧しい家庭環境や厳しい環境ではありますが、各学校の中でも優秀で、学校長の推薦により成績優秀な子供たちへ、コスモス奨学金としてサポートする事がふさわしいか確認され、奨学生として、また里子として里親になった皆さまから奨学金授与式において学用品や食糧支援なども含めて授与式が執り行われました。

一日８時間以上も掛けて遠方より駆けつけた奨学生や里子と、ご家族の皆さんや、また、図書室を設置するために御協力して戴いた皆さんのうれしそうな表情はとても輝いていました。　私達は、ここに参加し「柏東ロータリークラブ文庫としての図書」を贈ってよかったなと思っています。
会が終了し、こどもや家族との交流が始まっている中で、寺院内に於きまして、図書室の管理を依頼する内容や、今後の事も含めた説明をさせて頂き、ワルダナ寺院のアマラワンサ僧との確認・署名の交換を執り行いました。

今後のクラブとして、ベースの図書室は設置されましたので、今後の会長さん**や会員の皆様への協力により図書の増刊が出来ましたら、柏東ロータリー文庫が、本当の図書室としてスリランカの子共達や、地域の皆さまに活用されるだろうと考えていますし、また願っています。**
今後とも会員の皆にご協力頂き、**「スリランカの貧困の子共達の夢を実現するサポート」**を続けていけたらと考えています。
米山学友のサジーさんから輪が広がり、世話クラブの松戸西ロータリークラブや大網ロータリークラブのロータリアンが共に現地訪問し、様々な奉仕活動としてサポートされている事も合わせてご報告いたします。　是非皆さまも小さな事でも出来る奉仕をしてみては如何でしょうか。その活動の中ではロータリー財団の地区補助金はとても奉仕活動を行う為にはとても助かりました。
本日ここに　柏東ロータリークラブが今年度行った奉仕活動としてご報告させて頂きます。

地区補助金　国際奉仕活動
スリランカ日本音楽交流プロジェクトの報告

平成 27 年 4 月 22 日

松戸西ロータリークラブ　　山本　衛

【スリランカ支援までの道のり】2011 年 4 月より、松戸西ロータリークラブでは、米山奨学生として、スリランカより、サジーワニー・ルツ　柏ロータリー対空港文庫銘版掲示　マル・W.D.・ディ　サーナーヤカ・ムディヤンセラーゲーさん（以下サジーさん）をクラブで受入れた。サジーさんは優秀で、クラブでもよく卓話を依頼した。専攻は言語学で、スリランカと日本の間の言語について、サジーさんの専門知識を踏まえて、学んでいることをすこしずつ教えていただき、スリランカという国の知見を得ていった。特に、2009 年まであった、内戦の様子は、とても悲惨で、銃弾跡ののこる学校で、小さな子供たちが勉強している姿には、日本の平和ボケを強く考えざるを得なかった。(参照[1]　「ロータリーの友」2012 年 12 月号 P21)クラブのほうでも、奨学生を受入れた後、意識の変化があった。米山奨学生をテーマにして、インターシティーミーティングを、当クラブ主催で開催した。(参照[2]2013 年 2 月 13 日ＩＭ　於 松戸商工会議所）　その他にも、クリスマス例会時に、スリランカへ文具を寄贈。クラブの会員が結婚した際には、新婚旅行の工程で、スリランカへ立ち寄りを設け文房具を届けた。（参照[3]「ロータリーの友」2014 年 4 月号 P47）他にも、個人的にキーボードや、その他の楽器を、スリランカへ寄付を、行なった。こうして、松戸西ロータリークラブとスリランカとは、個人とクラブを交え、支援と親交を続けることができた。　（参照[4]「ロータリーの友」2014 年 11 月号 P22-P23）一方、サジーさんは自らの勉学の傍ら、母国スリランカのためにコスモス奨学会を、夫メルビン氏とともに運営をしてきた。この奨学金は、スリランカにて貧しくて教育の機会のない子供たちを、日本より支援する制度である。日本にて里親を募集し、一人あたり毎月 1000 円の支援で、貧困家庭であっても優秀であれば、奨学金により、高校卒業程度まで勉強することができる。サジーさん、メルビン氏は、毎年、日本より支援してくださる里親を、現地スリランカの優秀な生徒に引き合わせ続けてきた。(参照[5]「ハイライトよねやま 169」　2014年4月11日発行）　こうして、当クラブや、サジーさんによる、日本からスリランカへの支援・親交から発展したのがスリランカ日本音楽交流プロジェクトであった。スリランカでは行事の度に音楽隊が出動するのだが、肝心の楽器がない。楽器を購入したくても予算がない。拠点となる学校に楽器があれば周辺の学校、住民も利用できる。日本とは言葉も文化も違うなか、音楽だけはスリランカに限らず世界人類共通して通じることができる。スリランカと日本の両国にて、音楽を通じた、青少年奉仕活動を行い、互いの文化を尊重し、将来への発展に導けるよう当クラブでは、地区補助金を申請した。

柏東 RC　国際奉仕委員長のテープカット

バナー・会員写真掲示

図書室の開設後　図書室共通の景　利用状況と素晴らしい笑顔

新設された図書室　名印 2 掲部分

【贈呈に向けて】事前の調査では、コロンボ付近の学校は比較的に恵まれており、音楽室も楽器にも不自由なく運営されていた。一方、スリランカの奥地には、楽器一つなく８００名近くも勉強をしている貧しい地区の学校が有り、最も楽器贈呈の効果が高いと判断した。VEHERAGALA MAHA VIDYALAYA という学校は、コ

ロンボ空港より車で５時間半の場所に有り、その学校に楽器を送ることで子供達の心の教育に大きな役割を果たせるのではないかと判断し、贈呈する学校を決定した。１１月に視察隊を派遣し、５時間半の車輌移動が可能なのかどうか、また、安全面や水・食料事情を確認しながら、目的の学校を視察し、視察隊の５名により大筋の流れを決めた。また、贈呈式に向け少しでも多くの楽器が寄贈できるよう先発隊の手荷物を利用してキーボード、シンセサイザーを運搬した。そして、現地のロータリークラブ、Kandy Regency (Club ID 85773 District ID 3220)にメークアップし、現地の協力や、贈呈式の出席の確約を得ることができた。

日本では、会員を中心として、使われなくなった楽器収集を行った。会員の家族・会社・友人等の協力を仰ぎ、主にピアニカ・キーボード・シンセサイザー等の使われなくなった楽器が集まった。

２月になり、集めたピアニカの清掃・調整を行った。小学校で使われていたものが多く、シールの発貼やマジックによる記入が多かった。それぞれ、シール　剥がし溶剤や、シンナー等を使い丁寧に清掃した。また、ピアニカの口の部分のみ新品を用意した。ピアニアカもメーカーが３社あり、(YAMAHA・SUZUKI・KAWAI）それぞれに応じて口先も変えた。

音楽室に取付ける看板も、会員による手作りにより製作した。看板は、現地購入したほうがコスト的にも時間的にも有利だったのだが、あえて、手作業による制作を選択した。それは、今回のプロジェクトを通じ、会員の贈呈の気持ちを、現地の生徒に伝えたかったからである。木屑により全身粉まみれになりながらも懸命に作業に没頭する会員の思いは、必ず伝わってくれるだろう。

【楽器寄贈式】日本よりコロンボ空港まで、９時間半のフライトを終え、直ぐにマイクロバスで約３時間かけて、深夜に宿泊ホテルに到着した。この時点でかなりの疲労感が有ったが、直ぐに就寝し、翌朝の出発に備えた。翌朝、出発前に地元のロータリークラブ（Kandy Regency Rotary Club）の会長ほか３名が、ホテルまでお迎えに来て下さった。もう少しバスが大きければ、同乗出来たが、学校に運ぶ楽器や看板ほかの荷物を積んでいたため、別々の車で学校まで向かう事となった。休憩をとらず、約２時間半のドライブで学校に到着した。学校に到着した時には、学生たちが日本とスリランカの国旗を振って出迎えて下さった。そして、校長先生、スリランカの大統領秘書官、文部科学省担当官、教育委員会担当者とご挨拶をし、子供たちに出迎えられながら音楽室まで歩んだ。まずは式典会場横で、両国旗掲揚・学校旗掲揚を行い、両国歌斉唱・校歌斉唱を行いその後音楽室に向かった。

そこで、音楽室のオープンテープカットを行

い、今回送った楽器や看板を皆で箱から出して音楽室に並べ看板の取り付け位置を決めた。これは視察の際の音楽室予定場所が、変更に成ったためである。しかし、視察時の予定の場所より良い場所を確保してくださったので楽器の保管の面で良いと感じられた。その後、式典会場に向かい、いよいよ式典の開始である。生徒代表者が司会進行を行い、伝統行事のオイルランプ点灯の儀、校長先生の挨拶、歓迎の歌を日本語で歌って頂き、Kandy Regency Rotary Club 会長挨拶、松戸西ロータリークラブ会長挨拶と進み目録贈呈、バナー贈呈、お土産を渡し、Kandy Regency Rotary Club には、活動支援金を進呈する事が出来た。その後、歓迎の舞を見せて頂き、最後に大統領秘書官の感謝の挨拶を頂いて無事に式典は終了した。記念写真を撮り終えた時には、３時間の時間が経過していた。　VEHERAGALA MAHA VIDYALAYA 学校の位置は、コロンボから車で５時間半以上かかる非常に遠い場所だが、

が全て完成したら、コ
で行ける事に成る。
きっかけに、多くの子
を持つ機会が増えて情操教育の一つと成ってくれれば、我々のプロジェクトは成功する事となるだろう。

VEHERAGALA MAHA VIDYALAYA 学校より音楽大学に進み、音楽家・音楽教師が、輩出される事を祈りたい。

参考文献

[1]（参照「ロータリーの友」2012 年 12 月号 P21）
[2]（IM 報告書　2013 年 2 月 13 日ＩＭ　於 松戸商工会議所）
[3]（参照「ロータリーの友」2014 年 4 月号 P47）
[4]（参照「ロータリーの友」2014 年 11 月号 P22-P23）
[5]（参照「ハイライトよねやま 169」2014 年 4 月 11 日発行）

2014-15年度　クラブ別地区補助金承認一覧

受付番号	クラブ名	プロジェクト内容	会員数	活動の実施地	配分額（米ドル）	円 ＝ 102円
1	市川南	公園への健康遊具の寄付	16	Japan（日本）	1,765	180,030
2	市川ｼﾋﾞｯｸ	真間川河川浄化啓蒙	36	Japan（日本）	1,961	200,022
3	船　橋	「君たちの未来は輝いている」バスケットボール教室	26	Japan（日本）	2,128	217,056
4	船橋西	子供たちを危険から守る活動（あんしん教室）	44	Japan（日本）	2,108	215,016
5	船橋東	子供たちにエコロジーを！！	29	Japan（日本）	2,451	250,002
6	千葉中央	親子フェスタ	35	Japan（日本）	1,716	175,032
7	千葉幕張	児童養護施設の児童を招待した野球観戦会	36	Japan（日本）	1,618	165,036
8	千葉港	ラオス小学校への設備支援プロジェクト	27	Laos	2,942	300,084
9	市原中央	人権侵害による被害者の子供たちの教育援助事業	50	Indonesia(Jakarta)	1,520	155,040
10	木更津	木更津市少年野球低学年大会	35	Japan（日本）	491	50,082
11	君津 上総 富津シティ	親子で学ぼう疾病予防プロジェクト	43	Mongolian(Ulanbator)	2,942	300,084
12	袖ヶ浦	野球少年の生命を守る為ＡＥＤを！	24	Japan（日本）	1,177	120,054
13	館　山	沖ノ島の自然環境を皆で守ろう	57	Japan（日本）	1,961	200,022
14	勝　浦	県立千葉盲学校の生徒・介助者を１泊２日で招待	38	Japan（日本）	2,942	300,084
15	成田空港南	ＡＥＤ贈呈に伴う救命技能講習実施	36	Japan（日本）	1,569	160,038
16	茂原中央	幼稚園、保育園周辺に交通安全看板を設置する	15	Japan（日本）	2,206	225,012
17	印　西	子供たちに清潔な水をプロジェクト	26	Cambodia	1,814	185,028
18	柏　東	スリランカの貧困層の子供たちへの学習教材を送る	27	Sri Lanka	2,451	250,002
19	八千代 八千代中央	自殺、引きこもり、無気力といった子供たちを少なくしていこう	46	Japan（日本）	2,942	300,084
20	習志野中央	スナッグゴルフによる地域交流活性化プロジェクト	48	Japan（日本）	2,550	260,100
21	松戸東	盲導犬普及支援プロジェクト	51	Japan（日本）	1,716	175,032
22	松戸北	サツマイモ掘り	36	Japan（日本）	1,814	185,028
23	松戸中央	ベトナム　孤児救済プロジェクト	33	Vietnam	2,942	300,084
24	松戸西	スリランカ日本音楽交流プロジェクト	23	Sri Lanka	1,961	200,022
25	流　山	小学生ヘルスバレーボール大会支援プロジェクト	20	Japan（日本）	432	44,064
26	流山中央	中学生ふれあい陶芸教室	22	Japan（日本）	1,569	160,038
27	野田ｾﾝﾄﾗﾙ	Sibol Learning Centerの書籍と教育諸設備	23	Philippine	1,961	200,022
合　計					53,649	5,472,198

地区補助金とグローバル補助金

未来の夢計画における地区補助金とグローバル補助金の内容は、次の通りです。それぞれの補助金には大きな違いがあります。これらの違いと、それぞれの補助金の内容を確認して頂き、皆さんのクラブで活用出来る補助金を申請するようにしてください。地区ロータリー財団委員会は、こられのご相談をお受けしています。

下の表中「クラブ等」とあるは、各クラブと地区の委員会、青少年プログラム等の活動を含みます。

地　区　補　助　金	グローバル補助金
財源は、地区財団活動資金（ＤＤＦ）とクラブ資金です。当地区では、概ね50％を目途にＤＤＦを配分しますが、クラブからの申請状況により減額する場合があります。	財源はＤＤＦと国際財団活動資金（ＷＦ）と現金の組み合わせ。ＷＦの組み合わせ率はＤＤＦには１対１、現金には１対０．５の割合です。（使途指定寄付金で寄付）
３年前の年次基金寄付と恒久基金の運用益によるＤＤＦの50％以下の金額を地区の裁量で決めます。	ＤＤＦから地区補助金、ポリオプラスや平和センターへの寄贈等を控除した残額を配分します。
地区が一括して申請し、一括して補助金を受け取る。その後地区からクラブ等に補助金を授与します。	プロジェクト１件ごとにクラブ等が直接財団に申請します。個別申請です。
比較的短期間のプロジェクトです。長くても補助金を受け取ってから24ヵ月以内に完了しなければなりません。	長期にわたるプロジェクトです。（例外：職業研修チーム）
１回限りの比較的小規模なプロジェクト。	持続性のある成果を上げ、かつその成果を測ることが出来なければなりません。比較的大規模プロジェクトです
奨学生の奨学期間は、２年を超えてはなりません。	奨学生の奨学期間は、１年から４年までです。
奨学生は高校、大学、大学院、更に国内国外を構いませんが、当地区では国際親善奨学生に準じて実施します。	奨学金の場合、重点分野で海外の大学院で学ぶ場合に限られます。
１件当たりのプロジェクトへの補助金は、比較的少額で最低額の規定はありません。第2790地区では、配分するＤＤＦを１件当たり30万円以下と定めています。	１件当たりの補助金の額が多額です。下限３万ドル以上で、上限40万ドルのプロジェクトです。（当地区では、ＤＤＦの配分を 15,000ドル以下としています。）
国内の活動でも、国際レベルの活動でも可能です。	２ヵ国以上のクラブまたは地区が参加します。国際プロジェクトのみです。
相手国にロータリークラブの有無を問いません。	ロータリークラブが存在する国または地域のプロジェクトのみを対象とします。
プロジェクトの分野は問いません。地区の裁量に任されています。但し、一定の条件があります。	重点分野の１つ以上に該当するプロジェクトでなければなりません。
たとえ海外のクラブとの事業であっても、地区が主たる実施者で申請書を提出し実施と報告の責務を負います。	実施国側提唱者と援助国側提唱者の両者が必要です。しっかりした相手を選ぶ必要があります。
次の地区補助金が支払われるためには、現在の地区補助金をクローズにしなければなりません。	地区補助金を含めて、同時に10件のプロジェクトを申請出来ます。
一括して受け取った補助金を、受け取った後残金が有り財団に返却した場合、ＤＤＦとして繰り越しされます。	個別のプロジェクトの補助金を受け取った後残金があり財団に返却した場合、ＷＦに組み入れられます。
一括して受け取った補助金は、地区が管理します。クラブにも管理責任があります。	財団がプロジェクトを１件１件審査し、補助金を個別に授与します。
海外で奉仕活動をする、またはプロジェクトの調査をするロータリアンの旅費を支給出来ます。	ロータリアンの旅費は支給出来ません。ただし、職業研修チームのチーム・リーダーを除きます。

第2790地区　2015－16年度　シェアシステムについて

2015－16年度シェアシステムの金額はまだ確定していませんので、正確な数値ではありませんが、以下の通り推測値を記載します。

この表の内、①「３年前の年次基金寄付　約 316,068ドル」は、2012－13年度に第2790地区内の皆様が年次基金寄付をして頂いた金額の合計額です。

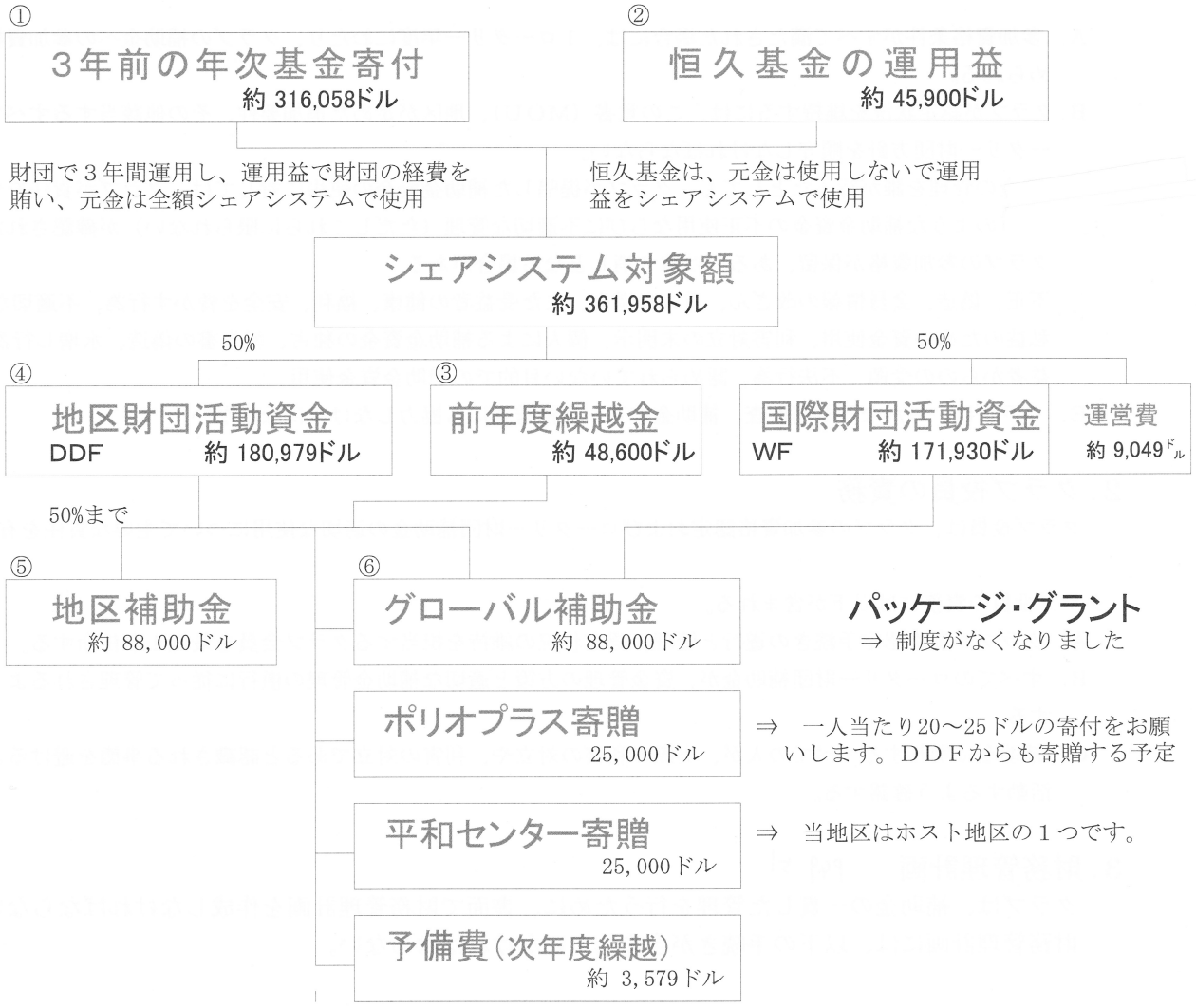
②「恒久基金の運用益」は、2014－15年度は、約51,000ドルでしたので、内輪にみて 約 45,900ドルとしました。

③「前年度繰越金」は、約 48,600ドルになる見込みです。

上記の結果、④地区財団活動資金（ＤＤＦ）の金額は、約 180,979ドルになる予定です。このＤＤＦと繰越金見込額を加えた額を地区財団活動資金運営規程（51ページ）の規定に基づいて、ポリオプラスと平和センターへの寄贈額を控除した残額の 約179,579ドルを⑤地区補助金と、⑥グローバル補助金にそれぞれ88,000ドルづつ配分する予定です。但し、各クラブからの地区補助金の申請状況によって、この配分額は変更になる可能性があります。

グローバル補助金の場合には、ＤＤＦに対して同額が、現金寄付に対しては半額が、それぞれＷＦから上乗せされます。なお、地区補助金とグローバル補助金の配分額の中には、それぞれ１名の奨学生を派遣することとし、その派遣費用を含んでいます。

なお、国際財団活動資金（ＷＦ）中運営費とあるは、2015－16年度から、ＷＦの５％を運営費に組み入れるとになりました。この措置は、財団の資金運用益が悪化した場合を想定して、財務の健全化を図るためです。この部分に余剰金が発生した場合には、ＷＦに組み入れられます。ＤＤＦには一切変更も影響ありません。



国際ロータリー第 2790 地区
地区奉仕プロジェクト委員会　御中

2015-16 年度「奉仕プロジェクト卓話」依頼書

クラブ名　　ロータリークラブ

卓話希望委員会名（希望する委員会に〇をしてください。複数でも構いません）

職業奉仕委員会　　社会奉仕委員会　　国際奉仕委員会

卓話希望日

	日　　程	例会開始時間
第１希望日	年　　月　　日（　　）	：　　～
第２希望日	年　　月　　日（　　）	：　　～

クラブ担当者
役　職
氏　名
連絡先　ＴＥＬ
Ｅメール

****
※特記事項：地区奉仕プロジェクト委員会は、職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕を統括しており、範囲が広く準備の都合もありますので、強調事項をお示しいただけると幸いです。

※卓話依頼書送付先

ＦＡＸ　：０４３－３０７－２７９１（ガバナー事務所）

Ｅメール：15-16gov@rid2790.jp（ガバナー事務所）

2015-16年度　奉仕プロジェクト委員会

氏　　名	委員会役職	氏　　名	クラブ名	携帯	事業所	事務所TEL	事務所FAX
				メールアドレス	役　職	自宅TEL	自宅FAX
奉仕プロジェクト委員会		嘉　規　洋	船 橋 西	090-2200-6786	東洋工業塗料(株)	047-379-2235	047-377-8970
統括委員長				h_kaki@toyo-jupiter.co.jp	代表取締役	047-433-4167	
職業奉仕委員会	委員長	川 原　勝 壽	佐　原	080-5684-9970	有限会社　川原総合保険	0478-55-1666	0478-55-1698
				kawaharahoken@arion.ocn.ne.jp	代表取締役	0478-55-1666	0478-55-1698
職業奉仕委員会	委　員	齋 藤　豊 久	勝　浦	090-8948-8561	斎藤液化ガス(株)	0470-73-2128	0470-73-5187
					代表取締役	0470-73-1006	0470-73-8844
職業奉仕委員会	委　員	河 野　和 夫	成田空港南		(株)キプロプテクニカル	0479-77-3366	0479-77-4411
				ken@atratech.com	代表取締役		
職業奉仕委員会	委　員	中 村　俊 人	柏　東	090-3530-7735	北斗建設工業(株)	04-7191-0366	04-7193-1858
				hokuto.kensetu@jcom.home.ne.jp	代表取締役	04-7191-6788	
職業奉仕委員会	委　員	山 本　克 己	四 街 道	090-2307-2731	(株)ストラクス	043-270-3811	043-270-3813
					代表取締役	043-441-5132	
職業奉仕委員会	委　員	池 田　勝 之	千　葉	080-5012-7685	スコープジャパン(株)	043-420-3004	043-422-7113
				ikeda@scopejapan.jp	代表取締役	043-420-3004	043-422-7113
社会奉仕委員会	委員長	山 下　清 俊	市 川 東	090-8451-6228	(株)東邦化学研究所	0436-22-2031	0436-22-2039
				yamakiyo@mvb.biglobe.ne.jp	代表取締役社長	043-293-7520	043-293-7520
社会奉仕委員会	委　員	根 本　孝 英	柏	090－3210－2803	宗教法人　東陽寺	04－7182－0232	04－7182－0264
				k-nemoto@bishop-nedo.or.jp	住職	04－7182－0232	04－7182－0264
社会奉仕委員会	委　員	植 松　省 自	千 葉 南	090-3211-6002	税理士法人京葉会計事務所	043-253-6131	043-253-7550
				shouji.u@mx3.alpha-web.ne.jp	代表社員	043-251-6132	
社会奉仕委員会	委　員	松 本　ユ ミ	柏　西	090-3108-5090	(有)　松本ユミ事務所	050-3536-1587	0475-24-6608
				matumo@yumi-office.jp	所長	04-7158-6104	
社会奉仕委員会	委　員	佐 藤　信 二	茂　原	090-3210-1899	有限会社サトウ上総通信社	0475-23-9396	0475-24-6608
				dzd13500@nifty.com	代表取締役	0475-35-5333	0475-35-5333
国際奉仕委員会	委員長	石　井　弘	松 戸 西	090-1120-1876	(株)あきら不動産	047-365-0331	047-368-3074
				akirafudousan@carrot.ocn.ne.jp	代表取締役	047-367-0899	047-367-0899
国際奉仕委員会	委　員	梅 原　佐 一	八 日 市 場		(株)梅原商店	0479-72-0010	0479-72-0042
					代表取締役		
国際奉仕委員会	委　員	鈴 木　荘 一	君　津	090-8845-5714	三木造園土木㈱	0439-52-0559	0439-54-5059
				mitsugi@poem.ocn.ne.jp	取締役	0439-54-1258	
国際奉仕委員会	委　員	阿 部　博 文	千　葉	090-8854-4806	シンコー株式会社	043-224-7713	043-224-7718
				hirofumi-abe@sinkoh.jp	代表取締役	043-264-3789	
国際奉仕委員会	委　員	高 木　浩 一	銚　子		髙木整骨院	0479-24-6144	0479-25-5119
					院長	0479-24-0065	
国際奉仕委員会	委　員	米 良　暁	千 葉 緑	090-2491-1931	パトナ株式会社	043-295-6790	043-295-6791
				mera@yoshimi.co.jp	代表取締役	043-205-2772	